

森づくりサポーターニュース

平成22年(2010)4月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/

「びわこ地球市民の森」は10歳を迎えました!!

これまで県民や企業の皆さんなどと県が協働で取り組んできました「びわこ地球市民の森」の森づくり活動が10年を迎えるました。

右の写真は、最初の植樹地となった「つどいのゾーン」の景色です。50cmの苗木が3~4mに育って、森へと移り変わりつつある様子が良くわかります。

以来、今まで、31,000人の市民の手で115,000本の苗木が植えられました。また、除草や間伐などの育樹作業にこれまでに延べ8,000人の参加がありました。皆様の取り組みに感謝申し上げます。

「びわこ地球市民の森」は、かつて都市部でも身近にあった森を再生し、地球温暖化対策に役立て、自然と人とのふれあいの場を後世に伝えていく、新しいスタイルの都市公園として整備を行っています。

写真にある「ふるさとゾーン」の樹林は80年を越えると云われ、未来の子供たちに残していく“森づくり”的姿ともいえます。

現在、20年計画(2000~2019年度)で進めておりますが、これは森づくりの第一段階です。これまでの10年の経過を確かめ、次の10年に向けて取り組みたいと思います。

市民や森づくりサポーターの皆様、地域の方々の一層のご支援ご協力をお願いいたします。



図-1 (写真)「つどいのゾーン」の景色の様子(右端は森づくりセンター、左後方の“緑の山”は「ふるさとゾーン」の樹林帯(樹高20mを超えるエノキ、ムクノキなどが点在)。

“森づくり10年”の経過と今後の取り組み

☆ 「びわこ地域市民の森」の整備状況

2000年（平成12年）に整備事業に着手し、すでに3ゾーン（つどい・ふれあい・出会いのゾーン、あわせて19.0ha）の公園施設はほぼ整備され、植樹も完了しています（図-3）。

2007年から、里の森ゾーンの施設整備（一部供用済み）と苗木植樹を進めています。未着手は「ふるさとゾーン（10.6ha）」のみで、都市公園の供用面積は2009年度末で23.6ha（計画面積42.5haの56%）に広がりました。

造成工事では、地形に起伏をもたせたり、植樹地には土壤改良をしています。また、水路を広げてワンドや中洲として、水辺と植樹帯が連続するビオトープ空間（生き物のすみか）となるよう工夫をしています。

☆ 苗木植樹の状況

苗木植樹は、予期以上に進んでおり、約115,000本に達しています（表-1）。企業による大規模植樹を除けば、最近は、年間15,000本程度のペースとなっています（図-2）。全体の植樹総数は約17万本と見込んでおり、4年先には完了の見通しとなりました。

個人の植樹を始めとして、企業の社会貢献事業としての取り組みや、団体等の記念植樹、また市民参加の“つどいの行事”などを通して予想を上まわるペースで植樹が進んできました。

樹種は、県内にある郷土種から落葉樹40種、常緑樹10種余を選んでいます。“親しみやすく明るい森”となるように植樹木の7割を落葉樹が占めています。

図2 年度別苗木植樹の状況

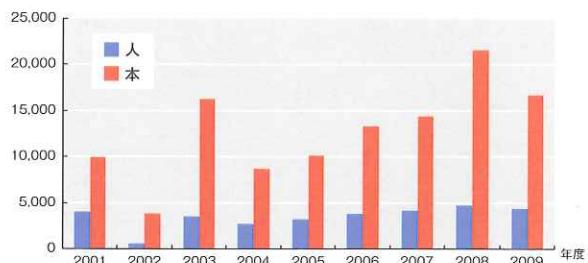
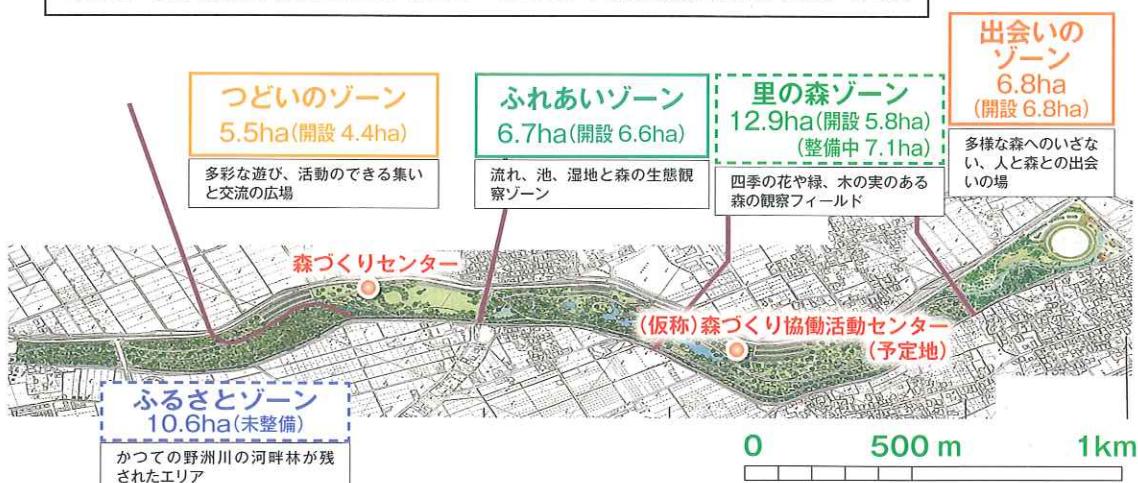


表-1 植樹参加者と植樹本数

区分	植樹件数 (件)	参加者数 (人)	植樹本数 (本)
つどい	9	14,400	30,950
学校	10	822	1,574
企業	69	10,365	50,906
個人	45	108	364
団体	105	5,573	31,217
合計	238	31,268	115,011

図-3 びわこ地域市民の森の整備状況（2010年3月末）

全体計画：面積42.5ha（延長3.2km、幅100～200m）、うち公園開設23.6ha（整備中7.1ha）



☆育樹活動の状況

樹木森が健全に育っていくには、苗木植樹後の3～4年間は除草が、その後に定期的な枝落しや間伐などの作業が必要です。これまで、除草作業は主に県が行い、間伐作業等は森づくりサポーターの定例活動や随時のボランティア活動で取り組まれています(表-2)。

育樹作業は、植樹3～4年後から10年間ほど続くことになります。「びわこ地球市民の森」では、苗木の生育が良く間伐頻度が高くなることも考慮し、参加人員・作業技術・用具等の面から育樹活動への取り組みを拡充していきます。

☆利活用（自然学習等）の状況

「びわこ地球市民の森」の最終的な目標は、「身近な自然とのふれあいの場」として多くの人達に活用していただくことです。現在の「森づくり」は苗木植樹から育樹活動にある段階のため利活用面に関しては付隨的な取り組み状況にあります(表-3)。

「森づくり」活動は、自然の仕組みを学ぶ学習そのものといえます。子供達がドングリから苗木を育て、植樹から育樹へ取り組む姿は、大切な体験学習でもあります。間伐材クラフトなど、森の恵みを感じ取れる作品づくりなども積極的に進めています。

当面、利活用面では、現在の取組みとともに、施設面の充実やプログラムの検討を進めています。

☆今後の取り組み

以下は、特に、今後の取り組みとして重要視される事項です。

- ①旧野洲川南流の歴史性と野生動植物の保全を重視した「ふるさとゾーン」の整備に着手(右欄、写真参照)。
- ②ボランティア活動および利活用の拠点施設の設置。
- ③育樹を中心としたボランティアの組織化および活動内容の整理。
- ④継続的な生物調査の充実、特にボランティアによる協力体制の検討。
- ⑤地域との連携を深め、一層の理解・支援を得るとともに、地域貢献に努めること(右欄、写真参照)。

表-2 育樹ボランティア活動の実施

◇ 森づくりサポーター登録者(2010年3月末)

- ・個人 215人(県内204人、県外11人)
- ・団体 5団体(ガールスカウト、レイカディア大等)

◇ 森づくりサポーター定期活動(4回/年度)

- ・つどい(植樹指導)、育樹(枝落し、間伐、苗木づくり)
- ・2001～2009年度 33回実施、延4,000人参加

◇ 隨時ボランティア活動(企業、自治会等、不定期)

- ・除草、枝落し、間伐、樹名板、シイタケ菌打ちなど
- ・2001～2009年度 71回実施、延4,000人参加

表-3 利活用(自然学習等)の実施

◇ 自然学習への取り組み

- ・植樹・育樹活動に組込み、校外学習・研修の際に
- ・サポーター定期活動時には自然教室を実施
- ・地域行事に参加(速野学区民のつどいに出展)

◇ 自然学習(自然教室)の内容

- ・講話、自然観察、クラフト(間伐材、竹材など)、ネイチャーゲーム、シイタケづくりなど
- ・2001～2009年度まで 119回、約5,500人参加

ふるさとゾーンの現況 (かつての野洲川南流の様子)



地域との連携

(今浜町コスモス祭りにサポーターも参加)



森づくりトピックス

“びわこ地球市民の森のつどい 2010”のご案内

2010年4月17日（土）に森の一年に一度の大イベント“びわこ地球市民の森のつどい 2010”が「里の森ゾーン」で開催されます。

10回目のつどいとなる今回は、～みどりが奏でるいのちの環をみらいへと～をコンセプトに、3,200本の一斉植樹のほかキャラクターなどとふれあえる“体験のブース”や人気の“食のブース”がオープンするほか“お楽しみのブース”では、森の音楽会や移動動物園などが楽しめます。

昨年は、2千人もの参加者（写真）がありましたが、今年もたくさんのご参加をお待ちしています。



お知らせ

平成22年度（2010）森づくりサポーター活動の計画

平成22年度のサポーター活動日は、つぎのとおりです。

平成22年 4月17日(土) 植樹（びわこ地球市民の森のつどい 2010）

平成22年 7月24日(土) 植樹地のつる切り、間伐、枝落とし

平成22年 10月10日(日) 植樹地の間伐、枝落とし、ドングリ苗の植替え

平成23年 3月 5日(土) 植樹地の間伐、枝落とし、シイタケ菌打ち

2010.3 末現在

植栽面積	57,253m ²
参加者数	31,268人
植栽本数	115,011本
(つどいのゾーン)	23,351本
(ふれあいゾーン)	36,195本
(出会いのゾーン)	21,158本
(里の森ゾーン)	34,307本

編集後記

びわこ地球市民の森は、2001年4月にオープンしてから10年目を迎えます。当初に植栽された苗木は、大きいもので7mに達し、多くのボランティアさんの手で植樹や手入れが進み、だんだん森らしくなってきました。また、小鳥や昆虫なども増えています。

さて、森のオープン当初から9年間勤務された今井紘一所長と3年間勤務された田上知職員が退職され、4月から、小井克己所長と石田勉職員に交代します。今後ともよろしくお願ひいたします。